

【担当教員名】 遠藤 和男 各学科助手	対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語・健康
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

<概要> 保健・医療分野において用いられている独特の用語や定義を理解し、卒業研究や卒後現場でも応用できる統計学の方法を学習する。旧カリの「医療統計学」及び「同演習」を合わせた内容となっており、奇数回目は講義、偶数回目は演習を主体とする。最終的には医療の現場でも重視されている、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎についての修得を目指す。

<一般目標：G I O>

証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる統計学的手法を理解し、正しい方法を適用できる。

<行動目標：S B O>

1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。
2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。
3. コンピュータ学習(CAD)に積極的に参加する。
4. 正しい統計学的な検定方法を選択できる
5. 適用した検定結果について正しく判断できる。
6. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題
1	疫学研究の型と指標	疫学調査で用いる各種統計指標を学び、統計学的に評価してみる。	1,2 講義
2	食中毒の原因究明	後ろ向き研究としてオッズ比の計算方法を演習する。	2-6 演習(助手が応援)
3	保健衛生の指標	人口動態統計その他の指標	2 講義
4	粗率と訂正率	人口構成その他の違いによる率の調整方法を学び、SMRを計算する。	2-6 演習(助手が応援)
5	敏感度と特異度	臨床検査学で応用されているスクリーニングの概念を学ぶ。	2 講義
6	スクリーニングレベル	レベルを動かした時の敏感度、特異度の変化、PVPについて演習する。	2-6 演習(助手が応援)
7	記述疫学とアンケート	記述疫学の方法やアンケート調査の実際について学ぶ。	2 講義
8	アンケート調査まとめ	アンケート調査の集計結果について傾向性の検定などを適用する。	2-6 演習(助手が応援)
9	仮説検定と有意水準	検定と推定の基礎について学ぶ。特に検定の手順と仮説について学ぶ。	2 講義
10	平均値の比較のまとめ	卒業研究時に最も多用される2群の平均値の差の比較について演習する。	2-6 演習(助手が応援)
11	地域関連研究	地域関連研究の考え方や生態学的偽相関について学ぶ。	2 講義
12	検量線と地域相関	検量線を描くとともに、地域関連研究の例について演習する。	2-6 演習(助手が応援)
13	生命表法とその応用	生命表法の考え方、臨床現場における応用について学ぶ。	1,2 講義
14	生命表と生存分析	Kaplan-Meier法について各自のデータをCADによって演習する。	2-6 演習(助手が応援)

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	医療統計テキスト	遠藤和男、山本正治	西村書店	1997第3刷、¥2500+税
参考書				
その他の資料	奇数回はレジュメを配布する予定である。専門用語を穴埋めしていくとサブ・ノートが出来上がることになり、それを偶数回目的のサブ・テキストとして使用する。もちろん偶数回目的の演習用のプリントは別途配布する。			

【評価方法】	【履修上の留意点】
1. 演習終了時に小レポートを提出してもらう。 2. レポートのみでは理解度が不明なので、試験期間中に小テストを実施する。	健康スポーツ学科及び社会福祉学科では内容が異なるし、履修できない。